

必修領域「知識基盤社会化やグローバル化のなかで望ましい学校教育の在り方を探る」講習概要・時間割

1. 日 時 : 平成29年7月31日(月) 10:00~17:20(休憩時間を含む)

2. 募集人数 : 40名

3. 講習内容

今日の知識基盤社会化やグローバル化は、アイデアなど知識そのものや人材をめぐる国際競争を一段と加速させる一方で、異なる文化や文明との共存や国際協力の必要性をますます増大させている。学校の抱える教育課題を広い視野で見つめ直し、解決策を先生方と一緒に模索する。具体的には「知識基盤社会における人材育成」「学校を巡る近年の状況の変化」「学校で活かす発達障がいへの理解と支援のための心理学」「教育施策と生徒指導の在り方」等の事項について、講義と討論形式により教員に求められる最新の知識・技能の習得を目指す。

4. 時間割等(予定)

時限(時間)	講習題目	内容	担当講師等
9:15~9:45	【 受付 】		
9:45~10:00	【 開講式 】		
1時限目 10:00~11:20	知識基盤社会における人材育成	教育改革の動向を踏まえながら、知識基盤社会において求められる人材育成の在り方を検討するとともに、創造性に視点を当て、その指導方法について考察し、自校の教育活動の改善充実に生かせるようにする。	巽 公一 工学部教授
2時限目 11:30~12:50	教員としての子ども観、教育観等についての省察	学校教育を巡る課題が山積するなかで、子ども観・教育観を含めて教員に求められる資質・能力が問われている。この問題について具体的な事象を取り上げ講義し、その後、講義内容を踏まえてグループ・ディスカッションを行う。受講者の主体的な学びによって、教育現場への実りあるフィードバックをめざす。	海口 浩芳 商学部准教授
12:50~13:40	【 昼休み 】		
3時限目 13:40~15:00	学校で活かす発達障がいの理解と支援のための心理学	現在、学校現場では子どもの発達障がいや虐待による行動の問題への対処に悩むケースが多くみられます。これらの問題に共通の脳の問題や自尊感情の低下の問題に焦点を当て、家庭や学校で起こる問題の要因とその支援の方法について考えます。	吉川 延代 政経学部講師
4時限目 15:10~16:30	教育施策と生徒指導の在り方	最近、生徒指導にかかわるいじめや児童虐待などに関連した新法が成立したり法改正が行なわれたりしています。こうした制度的枠組みの変更をたどりながら、生徒指導の在り方はどのように変容しているのか、今後の方向性も含めて考えていきます。	三木 健詞 政経学部教授
5時限目 16:40~17:20	修了試験(筆記試験)		

※ 各時限の担当講師・内容は変更となる場合があります。

※ 学内定期試験中のため、講習中にチャイムが鳴りますので、ご了承ください。